

令和7年度 自己評価校内委員会

令和7年9月25日（木）13:00～15:00実施

令和6年度の自己評価校内委員会を開催し教職員総意の元、評価を以下の通り実施した。

・自己評価委員：学校長他全教職員

4, 適切に対応 3, ほぼ適切 2, やや不適切 1, 不適切

（1）教育方針

評価概要	評定	評価
① 教育理念・方針・目標がしっかりと定められているか	3.92	教育目標をさらに明確化し、学生の朝礼等でも伝え、常に意識してもらうように掲示もしている。昨年に引き続き、目標達成のための具体案を出し、目に見える形で評価を行えるようにした。評価の具体案を出したものの、目標達成の具体的内容であるかを更に吟味する必要がある。
② 教職員・学生に周知されているか	4.00	教職員へは教務会議、メール、Lineにて情報伝達を常に行い、学生へはオリエン、朝礼、更にはSNSを通して、詳細に周知するようにしている。朝礼で唱和も行っている。ホームルームでも学生に周知するように心がけている。
③ 輩出すべき人材像に沿っているか	3.62	引き続き、教務会議等で講師陣と話し合い、その時代に合った学生の人物像について話し合っている。その人材像に近づけるように教育目標やその具体案を検討している。AIのみに頼らず、AIの使用方法・うまく付き合っていく方法についても考えていく必要がある。

【課題】

- ・専門学校生としての資質について、講師陣もまだ漠然としているものがある。更に話し合いを続け、意見をまとめて、皆が共に理想的な人物像をさらに明確化にし、指導していく必要がある。そして、就職へと学生を導いていけるよう明確な目標をさらにしっかりと伝えていく。教育方針も理想的な人物像に合わせたものへと随時変えていく必要があるように思える。

【改善案】

- ・年2回の教務会議以外に、各教科、各学年における会議を頻繁に持ち、学生の意識そして学力向上のために話し合う機会を増やす。コースごとでの会議を年に4回持ち、よりきめ細かな学生指導が行えるよう検討する必要がある。

【特記事項】

- ・昨年度の意見をもとに、更に詳しい教育目標に変え、学生が理解し目標とできるもの、先生方も学生への指導がしやすいように目標を明確にした。その内容を教職員全体への周知を徹底していく必要がある。

（2）学校運営

評価概要	評定	評価
① 学校として進むべき方向、ビジョンは策定されているか	3.80	育てたい学生像や教育目標は、去年に比べて改善し、より明確になった。社会人としての人間性の部分において育てたい学生像が日々変化していくため、より活発な意見交換が必要となる。
② 学校全体で共通の意思決定を共有することで、運営を実践しているか	3.50	毎年、週次ミーティングを行い、以前より相談、共有、意思決定がしやすくなった。今までに比べ、メール、LineやSNSを使用することによって、常勤、非常勤講師との連絡も取りやすくなった。そして、個人情報の取り扱いには十分気を付けるように指示を出している。
③ 適切な改善は行われているか	4.23	会議や、SNSを通しての話し合いの場は増えてきているので、学校全体に、連絡、報告ができていくように思われる。さらに連絡ノートなどを活用し、全体に周知できるような手段をうまく使用していくべき。

【課題】

- ・毎年言っていることだが、「学校全体としてのビジョン」という意識はまだまだ薄いのが、報告・連絡・相談の体制は改善されてきた。一人一人が全体としてのビジョンをより明確に持ち、話し合いを行い、情報共有を行うべきだと感じる。

【改善案】

- ・非常勤講師と授業以外での時間で話し合う機会が少ないため、更に講師からの助言や困り等も聞く場も作り、学校全体で、問題解決に力を入れる必要がある。常勤として学校に常にいると分かりづらい点も多々あるため、非常勤講師の意見は大変大切だと実感する。

(3) 教育活動

評価概要	評定	評価
① 教育課程を編成する体制は、整えられているか	3.91	教務会議やカリキュラム編成委員会を開催している。現場で活躍する方からの意見や教職員の意見を取り入れている。学校側から一方的に指針を出すだけでなく、非常勤講師を含め教職員の意見や自主性も受け入れる姿勢で体制を整えるよう意識している。
② 時勢に沿ったカリキュラムの改変は行われているか	4.12	教務会議、カリキュラム編成委員会、学校評価委員会、インターンシップ等を通して、時勢に沿ったカリキュラムや学生に必要な内容になるよう都度検討し、改変を行っている。そのためにもホテル、ブライダル関係の現場の方と関わる機会や意見交換の場をさらに増やしていきたい。
③ 授業評価を適切に行っているか	3.96	年に2回、定期試験の時に、学生に授業評価アンケートをとり、その結果を各講師へフィードバックしている。今後は過去のデータとの比較や、評価を受けて改善すべき点等を相談し共有する機会を設け、授業改善へ役立てたい。

【課題】

- ・去年と同様、個人に委ねられている教科や講師の専門外の科目に関して、まだまだ担当講師によるバラつきが懸念されるため、指針を明確に示すとともに、必要に応じて情報共有、相談する体制を整える。

【改善案】

- ・授業評価アンケート内容については、変更や追加部分が必要であれば変えていく。また、学生が理解しやすい内容に変えていく必要がある。評価を次へ活かし授業の質を向上させるよう、非常勤講師も含め結果を共有、相談する機会を設ける。評価の仕方や集計の仕方をやりやすいように変えていく必要がある。学生の人数が増えてきたため、集計にかなり時間がかかる。QRコードを使つての評価アンケートはどうかと意見は出ている。

(4) 学習成果

評価概要	評定	評価
① 資格取得の目標は定められているか	3.62	ホテル観光、ブライダル共にかなり具体的に設定されている。資格取得の必要性をひたすら伝えているため、資格取得への意欲も以前に比べてかなり高くなってきた。それが、授業への意欲・態度に表れてきている。資格取得の達成度にも影響してきているように思われる。さらに高い目標達成（資格の級などを上げる）に向けての指導の在り方を今後も検討していく。
② 就職率は向上しているか	3.50	ブライダル・ホテル業界への就職率は昨年度同様高くなっている。他の業種へ進路変更する学生も増えてきている。そして、早い時期に内定をいただいている学生も増えてきている。留学生に関しては求人案内や就職活動がこれから本格的になるため、今後に期待している。技人国ビザではなく特定技能ビザとして採用する企業様が増えてきている。
③ 卒業生の離職率に関し、卒業生並びに就職先との連絡を密に取っているか	3.20	離職率は昨年同様、少し高め。その企業への就職を目指して2年間頑張ってきたのに、2、3か月で退職する学生も数名いて、大変残念に感じる。就職してからの仕事のあり方・付き合い方についても、学生の時にしっかり指導していくべきかと思われる。卒業生が学校に訪問してくる機会は増えてきている。しかし、企業訪問の際などに卒業生の様子を訊

		いているが、もっと連絡を密にしていける必要がある。卒業生とも今後はコミュニケーションをとる機会を増やしていく。卒業生の離職率も今後の課題となる。
--	--	--

【課題】

- ・さらに検定試験の合格率・目標レベルをあげる。
- ・日本語能力との兼ね合いを考えながら、留学生が語学以外の資格取得を目指すことができないか検討する。
- ・卒業生の状況把握のため、企業訪問などの機会を増やす。
- ・就職先も増えてきたので、今後企業との繋がりが消えないように、就職先やインターン受け入れ先にも連絡をより密に取り、今後の就職活動への糧とする。

【改善案】

- ・取得や合格を目指すべき資格、検定やその受験級の見直し。英語の試験、TOEIC の目標は少し高すぎるかもしれない。
- ・日本人の就活の様子を留学生が知ることで、取り掛かりのタイミングや方法を学び、就職活動への意欲を高める。

【特記事項】

- ・毎年、離職率が高くなってきている。離職率の調査を行い、企業との連携ももう少し図るべき。訪問に行けない企業には電話対応する。卒業後も企業や卒業生と連絡を取り、離職した場合はどういう理由で辞めたのかを訊く。また、離職しないようなアドバイスも学生や企業に与える。

(5) 学生支援

評価概要	評価	評価
① 学生に対する経済的な支援体制は確立されているか	4.20	去年同様、奨学金、学費免除、保護者支援、早期割、研修費負担等、支援体制を多様にとっており、比較的充実したサポートを確立している。他の学校と比べても、かなりのサポートを行っている。
② 学生対応に係る人員配置は行われているか	2.86	事務職員、教員ともに人員が少なかったが、徐々に改善されてきている。職員の増員を目指し、データ管理等を以前より手厚く行えるようにしたい。一人一人の職員が、常勤、非常勤に関わらず、親身になって学生対応や指導を行っていけるように心掛けている。
③ 就職に対する支援体制は整えられているか	3.12	それぞれの担当コースの担任が、企業とのパイプ役として支援する体制を確立している。授業や個別対応の中で、教職員がそれぞれに動くのではなく、情報交換や共有、相談を行い教職員全体で連携してよりよい支援を行っていけるよう努めていく必要がある。

【課題】

- ・常勤講師や担任の進路指導への取り組みについて、非常勤講師とも更に綿密に連絡・連携を取っていく必要がある。

【改善案】

- ・就職に関して、更に情報収集に努めるとともに情報共有の仕方や協力体制を見直し、改善する。
- ・就職先から求人票や連絡を取りやすくするために、日ごろから連絡を取り合っておく。

【特記事項】

- ・専門学校において、経済的支援は、比較的充実している。

(6) 教育環境

評価概要	評価	評価
------	----	----

① インターンシップ及び校外（学外）授業について、各業界との協力体制が整っているか	3.82	校外授業は企業と連絡、連携をとり、積極的に増やした。インターンシップに関しては、長期休暇を利用して行い、企業との事前・事後の連絡もより密に行い、お互いに協力する体制を整えてきたが、更に充実させる必要がある。
② 防災に関して、定期的に避難訓練を実施し、安全体制が確立されているか	3.35	防災担当者を新たに設け、年に1度の避難訓練の実施や防災マニュアルの用意など安全体制の確立に努めている。資料配布や掲示など、意識を高めるよう日頃からさらに呼びかけていく必要がある。
③ 施設整備は教育上の必要性に対し、十分に整備されているか	2.94	備品購入や、設備に関しては実際の現場を見学や使用することで徐々に補っている。設備点検や修善に関しては日頃から定期的に行っている。

【課題】

- ・ 郊外授業やインターンシップの開拓、方法や期間の検討は必要。理想と現実のギャップを少しでも埋め、現場を経験することで即戦力になれるよう、また離職率を下げるができるよう、郊外授業やインターンシップの充実を図る。
- ・ 留学生の就職への取り組みがまだ遅いため意識づけや、旅館やホテルへの理解を深めるために留学生のインターンシップがもっと充実できれば良いかと思う。（1年の夏休み中に行う。）

【改善案】

- ・ 留学生の就職の取組み早くするために、インターンシップ、企業見学、会社説明会等の企画を設ける。就職意欲を掻き立てるイベントを計画する。また、日本人学生とも交流機会を更に設け、日本人の就職活動意欲などを知り、やり方などを学ぶ。
- ・ 企業とさらなる協力体制を築く。学生には可能な限りアルバイト先にブライダル・ホテル業界を薦める。

【特記事項】

- ・ 県内、県外において、インターンシップを長期で引き受けてくださり、また有給で行ってくださる企業様が増えて、大変助かっている。長期のインターンに適応できる学生を育成していく必要がある。

（7）学生募集

評価概要	評価	評価
① 学生募集に対し、広報活動・ガイダンス参加・SNS発信・オープンキャンパス等、適切な活動が行われているか	3.40	SNSを中心とした広報活動にシフトしつつある。引き続き、パンフレットやSNSを使用して、一通りの広報活動を行っており、充実した発信内容を目指している。一方、現状維持のみでなく、さらに発信していくことを目指す。学校訪問、ガイダンス、オープンスクールなどを通して、より高校生にリアルに本校の良さを知ってもらい、募集につながるように更にアプローチをする必要がある。
② 在校生、卒業生から後輩への呼びかけを促進しているか	3.20	在校生や卒業生からの推薦で本校受験を決めた学生も増加してきた。今までかなりの卒業生を輩出している中、もう少し、卒業生からの紹介が増えてもいいように思われる。学生が高校生に勧めてくれるような学校作りを目指して、学生指導や教授を行う必要がある。
③ 学費は適正か	4.32	適正。減免や支援制度を使用すれば、かなり安いと感じる。

【課題】

- ・ 学生募集について、広報担当が主となって情報共有を行い、職員、在校生、卒業生とどのように進めていくのか話し合う。学校全体として取り組めるよう、協力体制を整える。

【改善案】

- ・ SNSの更なる活用（TikTokなど高校生に流行のコンテンツと取り入れる）
- ・ 留学生に対して、学生募集の策を考える場を設ける。留学生を対象とした学校説明会を実施する。

(8) 財務

評価概要	評定	評価
① 健全な学校運営を行うための適正な予算管理と、適正な予算執行を行い、検証しているか	3.30	消耗品や必要備品はコストパフォーマンスを意識して選び、昨年度の予算を確認しながら適正に執行するように心がけている。年間の予算を事前に把握し、現場実習等に充てる予算を検討する場をさらに設けたい。
② 経費の無駄を省くための指針は定められているか	3.47	教職員一人一人が無駄のないように日頃から意識している。さらに無駄を省けるものがないか常に検証していく。
③ 会計監査は適切に行われているか	3.60	税理士と経理担当で会計監査を行っている。監査報告書もホームページに掲載している。

【課題】

- ・教職員全員が予算に対して、他人事ととらえるのではなく、検証する場を設ける。指針については明確に記載する。
- ・空調設備等の使用ルール等に関しては、教職員や学生で定期的にルールを再確認する。

【特記事項】

- ・引き続き、無駄な経費を省くために、節電など、身近にできることをしっかり行う。

(9) 法令等の遵守

評価概要	評定	評価
① 交通事故、犯罪及び犯罪巻き込まれ、その他近隣の住民に対して、迷惑をかけないなどの周知は定期的に行われているか	3.50	定期的に警察から訓示を行ってもらう等、警察との連携をとっている。終業式等においても、学生へ都度呼び掛けを行っている。
② 個人情報の保護が適正に行われているか	3.55	これまでに特に問題は起きていないが、SNS 等の使用も多いため、個人情報の取り扱いには今後も注意していく。
③ 就業規則は、全教職員に周知徹底されているか	3.24	周知徹底には改善の余地がある。徹底を目指し、再確認も含めて見直す必要がある。

【課題】

- ・法令について考える機会の見直しをし、意識づけを行う。
- ・学生が交通事故や事件に巻き込まれた際の対応方法をマニュアル化し、夜中や休日に事故に遭った場合にある程度は自力で対応できるような体制を整える。教職員の手続き方法についてもスムーズに迅速に行えるようマニュアル化を考える。

【改善案】

- ・時間外労働はかなり減ってきたが、更に減らすよう、更なる効率化を図る。

【特記事項】

- ・個人情報の管理を、更に徹底。USB の持ち出し禁止。USB やメールにはパスワードをかけ、誰でも個人情報を見ることができないようなシステムを設置している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価概要	評定	評価
------	----	----

①	ボランティア活動、大分駅南口周辺の清掃活動は定期的に行われているか	3.52	定期的に清掃活動を学生と教職員で行っている。学生や教職員がプライベート等で自発的にも活動してくれるように動機付けをも行うべき。
②	地域の方との交流は行われているか	2.86	国際祭りやリアルウェディング等のイベントを通して、地域の方々とより交流できる場を持てるように心がけている。また、留学生と日本人との交流の場も更に多くしたい。
③	ハローワーク等と連携して、職業訓練などのキャリア教育を積極的に実施しているか	2.92	依頼があった場合には積極的に実施している。市の国際キャリア対策等ともっと連携をとり、キャリア教育などにも役立てたい。

【課題】

- ・地域の方々との交流の機会や場所について、更に計画をたてるべき。
- ・他機関、行政とのつながりを増やす。

【改善案】

- ・地域の方々を招いて、国際祭りなどのイベントを通して、明日香国際、また明日香学園の存在を更にアピールしたい。また、ボランティア活動として、地域の清掃活動の機会を増やしていきたい。